

IV 宮 城 県 の 経 済 動 向

令和8年第2四半期

(4～6月期)

I 概況

令和8年第2四半期(4～6月期)の宮城県の経済動向について、指標別にみると以下のとおりとなっている。

- ・ 生産は鉱工業生産指数が2期連続の上昇となった。
- ・ 住宅投資は分譲住宅や持家などの増加により5期ぶりの増加となった。
- ・ 公共投資はその他(独立行政法人等、地方公社、その他)や都道府県の発注工事が増加したことにより、3期連続の増加となった。
- ・ 個人消費では、百貨店・スーパー販売額は6期連続の増加、コンビニエンスストア及び専門量販店を加えた合計販売額(参考値)は7期連続の増加となった。乗用車新車登録・届出台数は普通車や小型車などの増加により4期ぶりの増加となった。仙台市消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は 20 期連続の上昇となった。
- ・ 雇用では、有効求人倍率が7期連続の低下、新規求人倍率が2期ぶりの上昇となった。所定外労働時間は5期ぶりの減少、実質賃金指数は2期ぶりの上昇、雇用保険受給者実人員は4期連続の増加となった。
- ・ 企業倒産件数は、2期連続の減少となった。

(単位：％、ポイント)

主要経済指標の推移（前期比（差）、前年同期比）			令和6年			令和7年			令和8年	
			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月 4～6月
生産	鉱工業生産指数 ※1	(前期比)	7.5	▲ 8.4	4.4	2.5	▲ 2.5	▲ 2.9	0.0	4.6 1.9
住宅投資	新設住宅着工戸数	(前年同期比)	30.9	▲ 1.4	7.8	16.7	▲ 56.0	▲ 29.1	▲ 24.9	▲ 10.8 30.4
公共投資	公共工事請負金額	(前年同期比)	▲ 3.8	▲ 3.1	▲ 15.9	4.0	12.6	▲ 1.2	41.7	31.6 6.4
個人消費	百貨店・スーパー販売額 ※2	(前年同期比)	0.5	▲ 0.5	▲ 0.7	0.5	1.1	1.4	1.2	2.1 2.0
	コンビニエンスストア販売額	(前年同期比)	▲ 0.6	▲ 2.7	0.1	2.6	3.6	4.4	3.0	1.2 ▲ 0.1
	家電大型専門店販売額	(前年同期比)	4.3	▲ 3.9	▲ 2.9	5.7	2.2	1.8	7.7	7.6 6.0
	ドラッグストア販売額	(前年同期比)	7.5	5.2	6.4	6.3	8.5	8.7	11.1	8.4 6.6
	ホームセンター販売額	(前年同期比)	0.5	▲ 1.5	▲ 1.6	2.4	▲ 1.9	▲ 0.7	▲ 0.9	▲ 0.3 0.2
	計 ※3	(前年同期比)	1.7	▲ 0.4	0.5	2.6	3.0	3.4	3.7	3.4 2.5
	乗用車（含軽）新車登録・届出台数	(前年同期比)	▲ 14.2	▲ 1.9	▲ 6.8	12.7	11.3	▲ 3.4	▲ 3.6	▲ 6.2 9.7
	仙台市消費者物価指数 ※4	(前年同期比)	3.1	2.8	2.8	3.7	4.0	3.3	2.8	1.6 1.3
雇用	有効求人倍率 ※5	(前期差)	▲ 0.06	0.00	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.02	▲ 0.04	▲ 0.02	▲ 0.02 ▲ 0.01
	新規求人倍率 ※5	(前期差)	▲ 0.12	0.04	▲ 0.05	0.07	▲ 0.05	▲ 0.09	0.03	▲ 0.01 0.01
	所定外労働時間 ※6	(前年同期比)	▲ 2.9	6.3	7.9	▲ 6.0	14.6	1.9	1.5	6.9 ▲ 4.8
	実質賃金指数 ※6	(前年同期比)	2.2	1.1	7.2	▲ 4.4	1.2	▲ 0.9	0.2	▲ 0.6 4.9
	雇用保険受給者実人員	(前年同期比)	6.3	3.7	▲ 3.1	▲ 1.7	▲ 0.3	7.8	9.7	7.9 5.5
企業倒産	企業倒産件数	(前年同期比)	42.9	0.0	0.0	▲ 2.3	▲ 14.0	23.5	15.2	▲ 14.0 ▲ 2.3

- ※1 令和2年=100。
 ※2 全店舗比較による。
 ※3 各公表値（端数処理済）の合算による概算値（参考）。
 ※4 令和7年=100。生鮮食品を除く総合指数。各公表値（端数処理済）の単純平均による概算値（参考）。
 ※5 単位はポイント。
 ※6 令和2年=100。事業所規模30人以上、製造業。実質賃金は現金給与総額。

Ⅱ 主な指標の動き

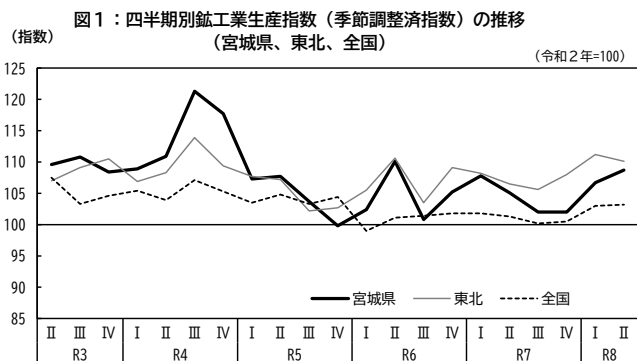
1 生 産

○ 鉱工業生産指数

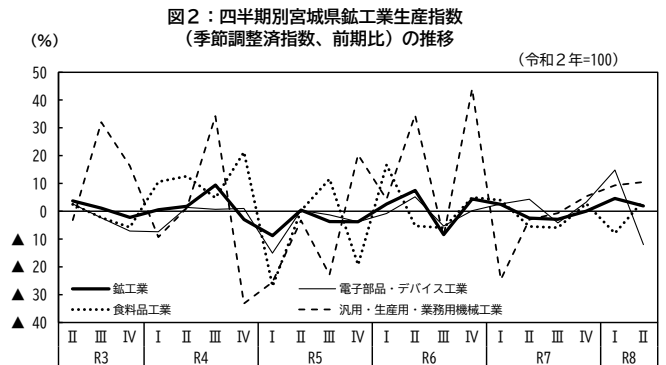
令和8年第2四半期(4～6月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は 108.7(令和2年=100)で、前期比が 1.9%の上昇となり、2期連続の上昇となった(図1、図2)。

ウェイトの大きい業種を中心に前期比をみると、汎用・生産用・業務用機械工業は 10.5%上昇し、3期連続の上昇となった。食品工業は 3.8%上昇し、2期ぶりの上昇となった。電子部品・デバイス工業は 12.0%低下し、3期ぶりの低下となった。(図2)

前年同期比(原指数での比較)では 2.8%の上昇となり、3期ぶりの上昇となった。



(資料:宮城県統計課)



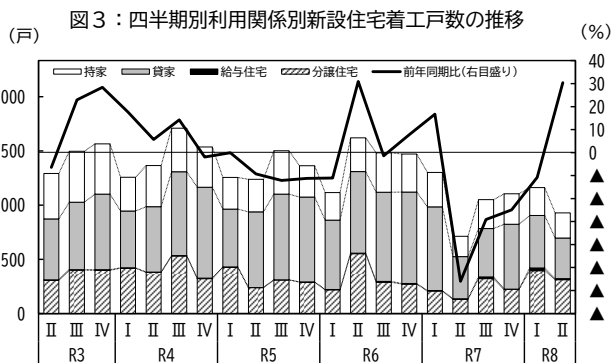
(資料:宮城県統計課)

2 住宅投資

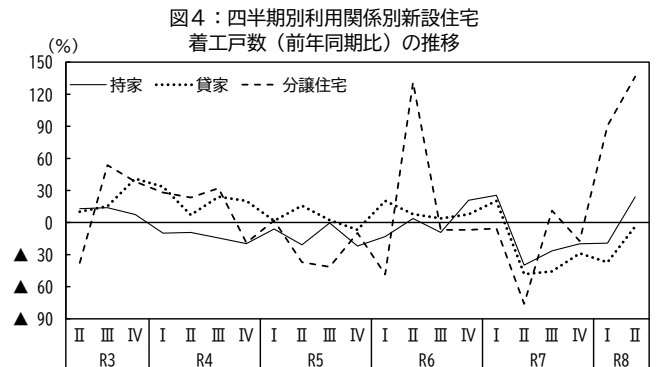
○ 新設住宅着工戸数

令和8年第2四半期(4～6月期)の新設住宅着工戸数は 2,786 戸で前年同期比が 30.4%の増加となり、5期ぶりの増加となった(図3)。

利用関係別に前年同期比をみると、分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は 136.6%増加し、2期連続の増加となった。持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は 24.0%増加し、5期ぶりの増加となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は 3.5%減少し、5期連続の減少となった。(図4)



(資料:国土交通省)



(資料:国土交通省)

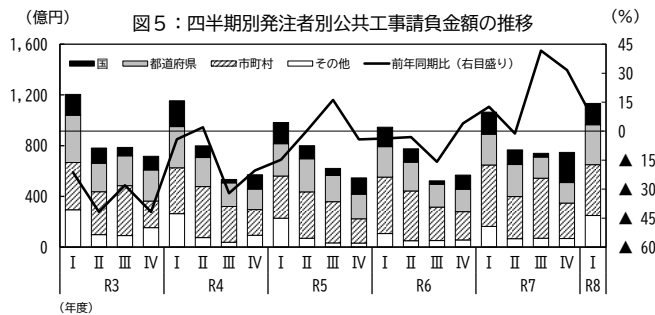
3 公共投資

○ 公共工事請負金額

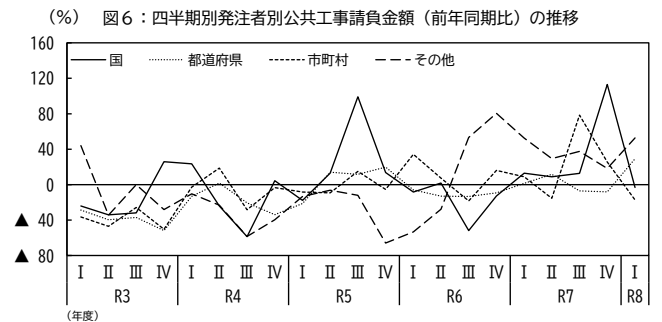
令和8年度第1四半期(4～6月期)の公共工事請負金額は1,132 億 49 百万円で、前年同期比が6.4%増加し、3期連続の増加となった(図5)。

発注者別に前年同期比をみると、その他(独立行政法人等、地方公社、その他)は 52.7%増加し、7期連続の増加となった。都道府県は 29.3%増加し3期ぶりの増加となった。国は 3.1%減少し、5期ぶりの減少となった。市町村は17.2%減少し、3期ぶりの減少となった。(図6)

※ 公共工事請負金額は、年度をベースにしているため、動向や資料は年度を基準としています。



(資料:東日本建設業保証(株))



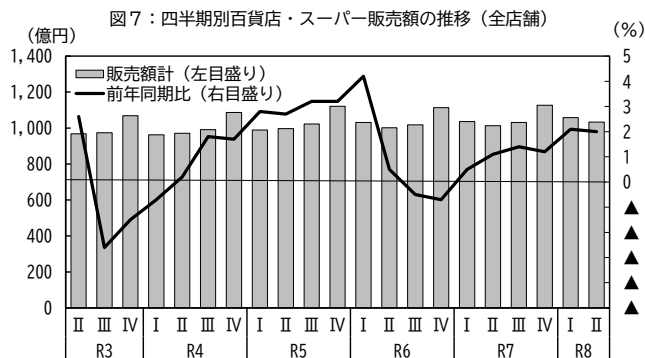
(資料:東日本建設業保証(株))

4 個人消費

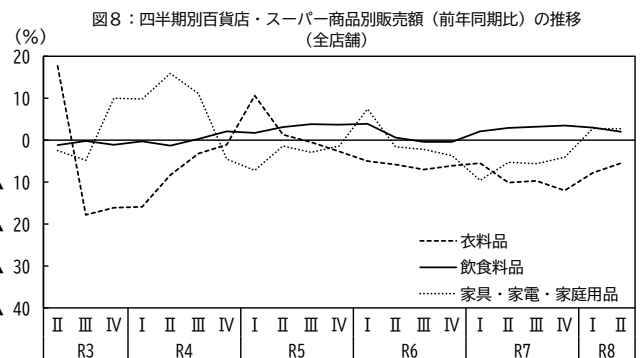
(1) 百貨店・スーパー販売額

令和8年第2四半期(4～6月期)の百貨店・スーパー販売額は1,033 億 20 百万円で、全店舗比較の前年同期比は2.0%増加し、6期連続の増加となった(図7)。既存店比較の前年同期比は0.6%の減少となり、3期連続の減少となった。

商品別に前年同期比(全店舗比較)をみると、飲食料品は 2.0%増加し、6期連続の増加となった。その他商品(医薬品、化粧品、洗剤、書籍等)は 4.4%増加し、2期連続の増加となった。身の回り品は 3.4%増加し、2期連続の増加となった。家具・家電・家庭用品は 2.7%増加し、2期連続の増加となった。食堂・喫茶は 2.8%減少し、5期ぶりの減少となった。衣料品は 5.5%減少し、12 期連続の減少となった。(図8)



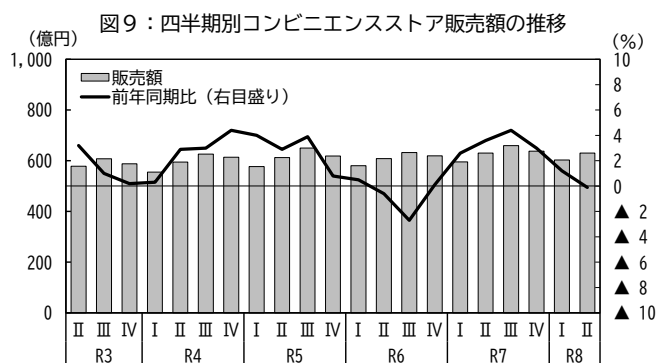
(資料:東北経済産業局)



(資料:東北経済産業局)

(2) コンビニエンスストア販売額

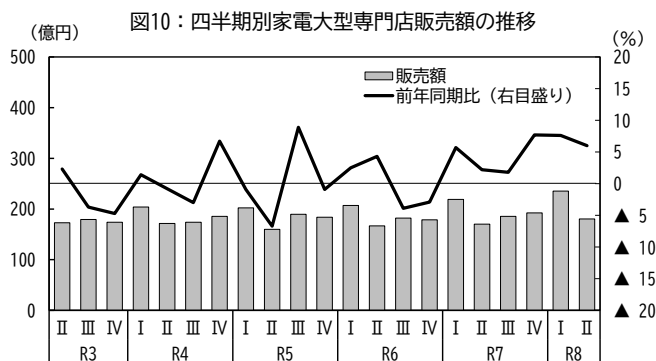
令和8年第2四半期(4～6月期)のコンビニエンスストア販売額は630億8百万円で、前年同期比は0.1%減少し、7期ぶりの減少となった(図9)。



(資料:東北経済産業局)

(3) 家電大型専門店販売額

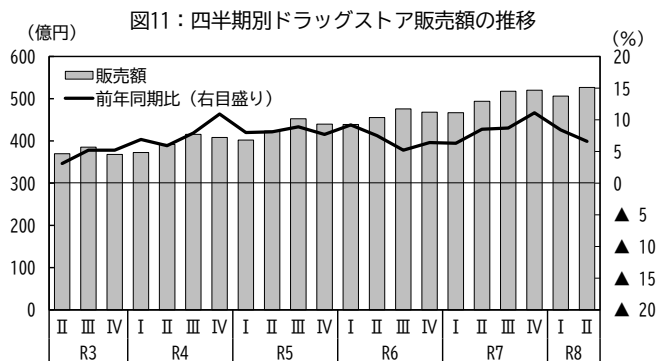
令和8年第2四半期(4～6月期)の家電大型専門店販売額は180億39百万円で、前年同期比は6.0%増加し、6期連続の増加となった(図10)。



(資料:東北経済産業局)

(4) ドラッグストア販売額

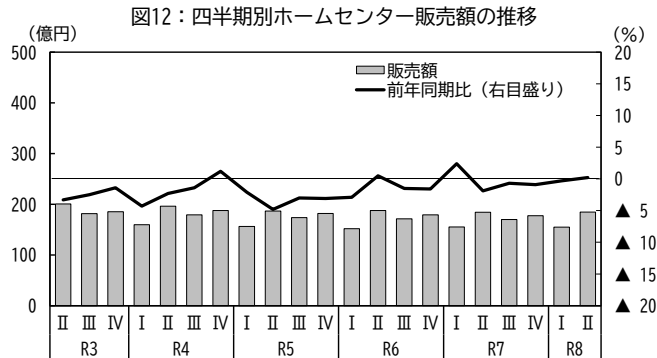
令和8年第2四半期(4～6月期)のドラッグストア販売額は526億62百万円で、前年同期比は6.6%増加し、41期連続の増加となった(図11)。



(資料:東北経済産業局)

(5) ホームセンター販売額

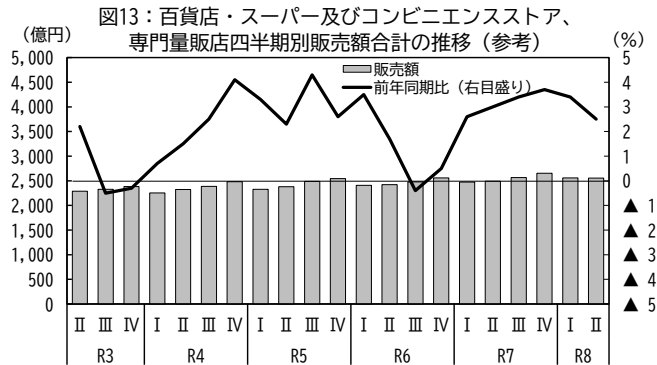
令和8年第2四半期(4～6月期)のホームセンター販売額は184 億 45 百万円で、前年同期比は0.2%増加し、5期ぶりの増加となった(図12)。



(資料:東北経済産業局)

(6) 百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額(参考)

令和8年第2四半期(4～6月期)の百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額の合計(概算による参考値)は2,554 億 74 百万円で、前年同期比は2.5%増加し、7期連続の増加となった(図13)。



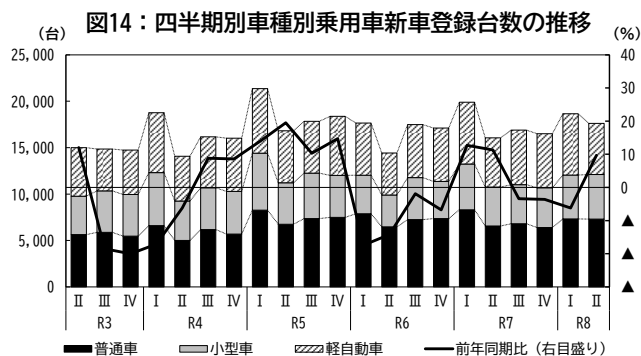
(資料:東北経済産業局)

※(1)～(5)各公表値(端数調整済)の合算による概算値。

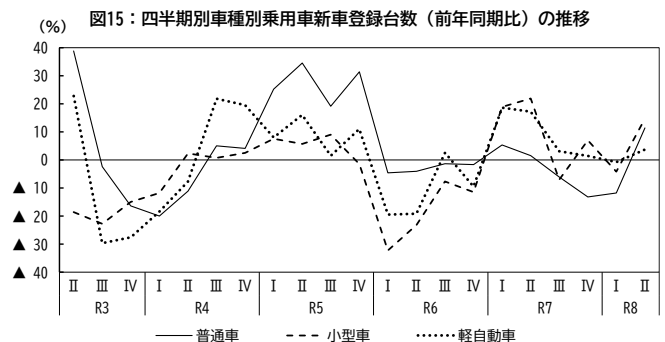
(7) 乗用車新車登録及び届出台数

令和8年第2四半期(4～6月期)の軽自動車新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万 7,622 台で、前年同期比が9.7%増加し、4期ぶりの増加となった(図14)。

車種別に前年同期比をみると、普通車は11.4%増加し、4期ぶりの増加となった。小型車は14.7%増加し、2期ぶりの増加となった。軽自動車は3.7%増加し、2期ぶりの増加となった。(図15)



(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)



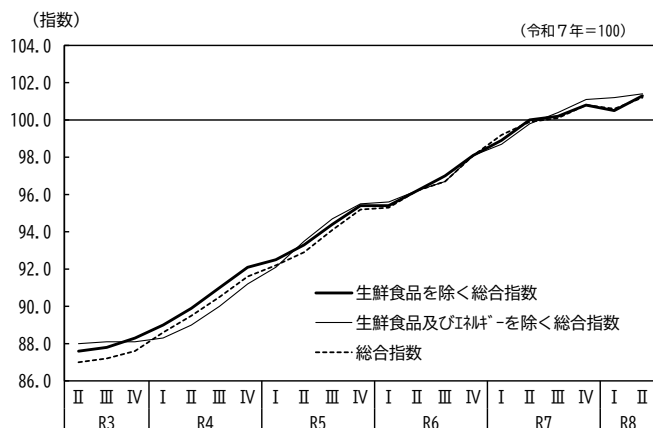
(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)

(8) 仙台市消費者物価指数

令和8年第2四半期(4～6月期)の仙台市消費者物価指数(令和7年=100)は、生鮮食品を除く総合指数は101.3で、前期比が0.8%上昇し、2期ぶりの上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.4で、前期比が0.2%上昇し、18期連続の上昇となった。総合指数は101.2で、前期比が0.6%上昇し、2期ぶりの上昇となった。(図16)

前年同期比では、生鮮食品を除く総合指数は1.3%上昇し、20期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は1.6%上昇し、17期連続の上昇となった。総合指数は1.3%上昇し、20期連続の上昇となった。

図16：四半期別仙台市消費者物価指数の推移



(資料:宮城県統計課)

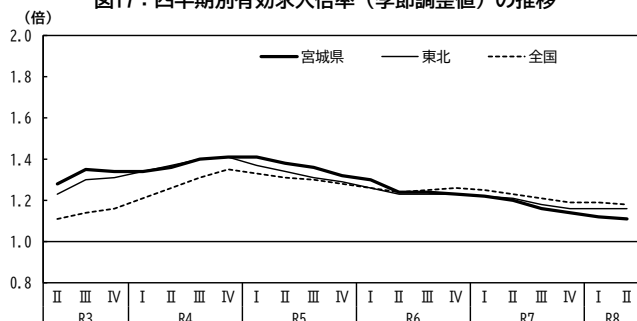
5 雇 用

(1) 求人倍率

令和8年第2四半期(4～6月期)の有効求人倍率(季節調整値、4～6月平均値)は1.11倍で、前期を0.01ポイント下回り、7期連続の低下となった(図17)。

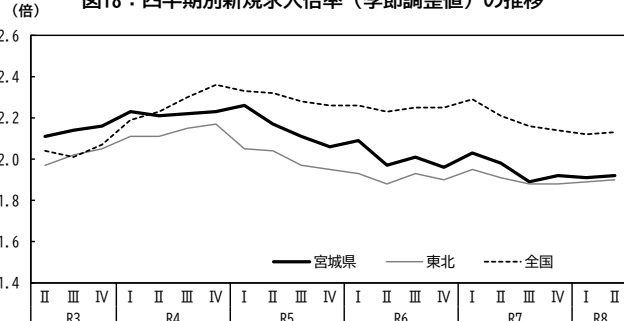
新規求人倍率(季節調整値、4～6月平均値)は1.92倍で、前期を0.01ポイント上回り、2期ぶりの上昇となった(図18)。

図17：四半期別有効求人倍率(季節調整値)の推移



(資料:宮城労働局)

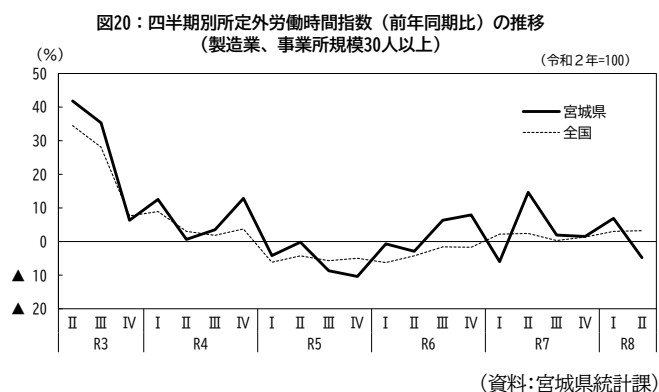
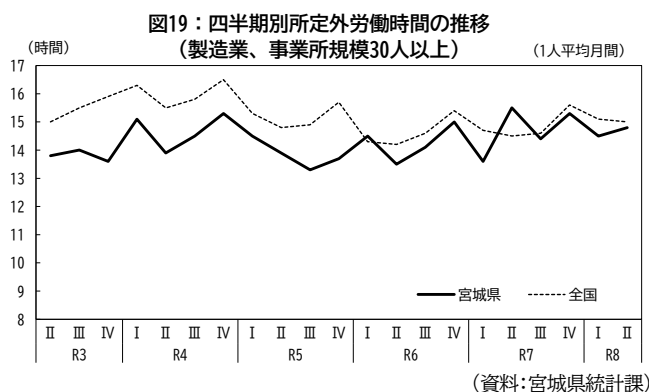
図18：四半期別新規求人倍率(季節調整値)の推移



(資料:宮城労働局)

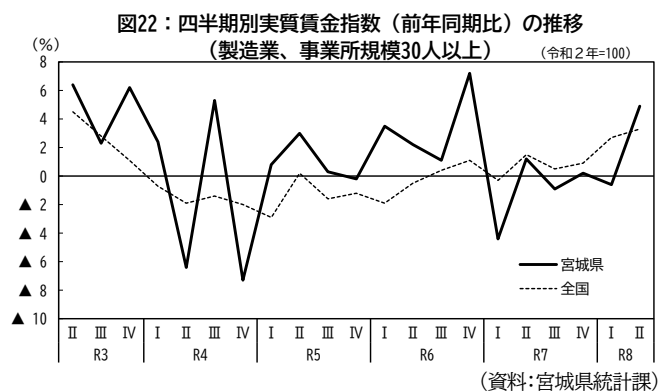
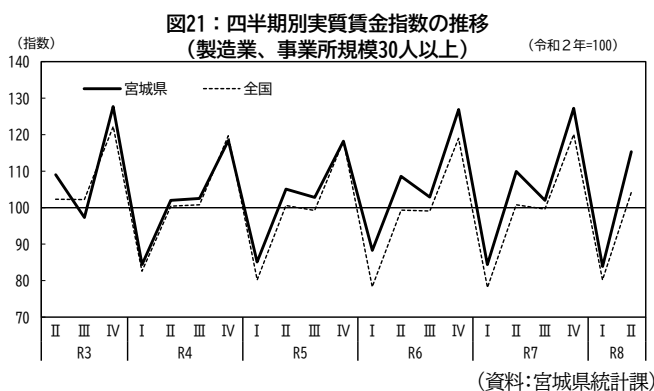
(2) 所定外労働時間

令和8年第2四半期(4～6月期)の所定外労働時間(製造業、事業所規模30人以上、1人平均月間)は14.8時間で(図19)、前年同期比(指数、令和2年=100)は4.8%減少し、5期ぶりの減少となった(図20)。



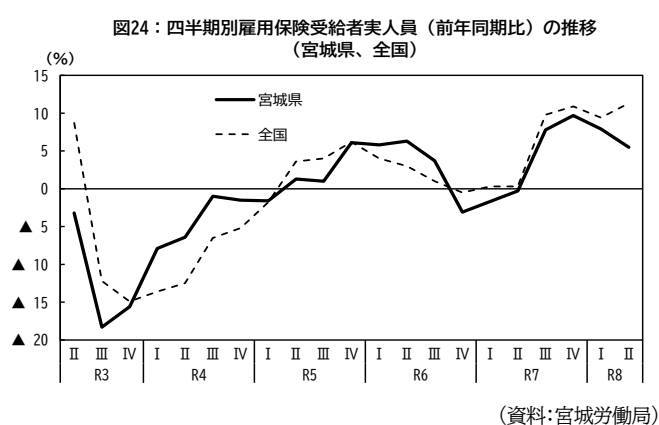
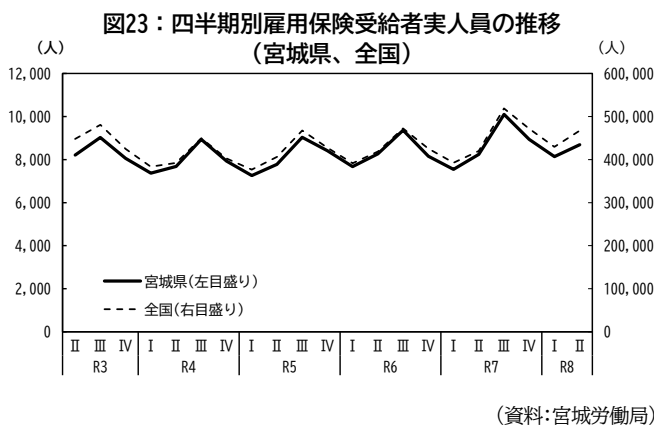
(3) 実質賃金指数

令和8年第2四半期(4～6月期)の実質賃金指数(製造業、令和2年=100、事業所規模30人以上)は115.3で(図21)、前年同期比は4.9%上昇し、2期ぶりの上昇となった(図22)。



(4) 雇用保険受給者実人員

令和8年第2四半期(4～6月期)の宮城県の雇用保険受給者実人員は8,693人で(図23)、前年同期比は5.5%増加し、4期連続の増加となった(図24)。



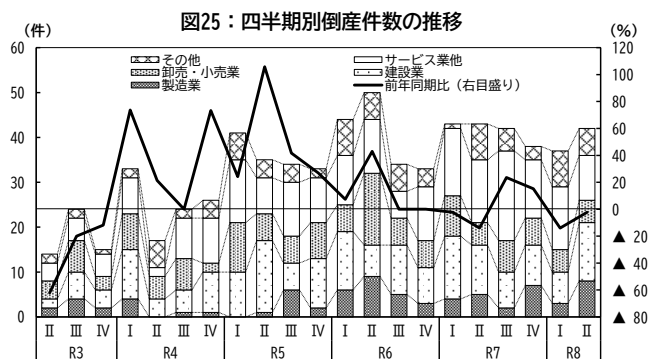
6 企業倒産

令和8年第2四半期(4～6月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は 42 件で、前年同期比は 2.3%減少し、2期連続の減少となった(図 25)。

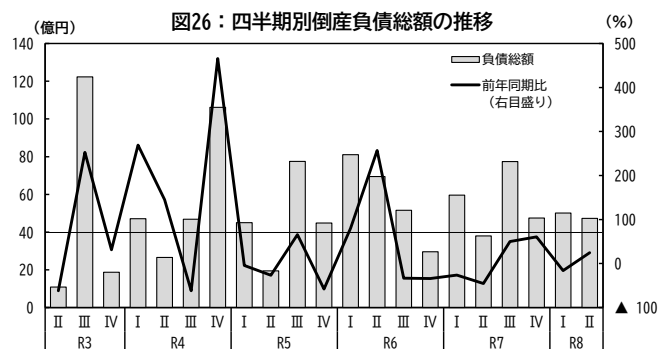
負債総額は 47 億 33 百万円で、前年同期比は 24.6%増加し、2期ぶりの増加となった(図 26)。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ(赤字累積))の件数は 37 件で、前年同期比は 15.6%増加し、2期ぶりの増加となった。件数の構成比は 88.1%で、前年同期より 13.7 ポイントの上昇となった。

大型倒産(負債総額 10 億円以上)は発生しなかった。



(資料:(株)東京商工リサーチ)



(資料:(株)東京商工リサーチ)